

photopos 8

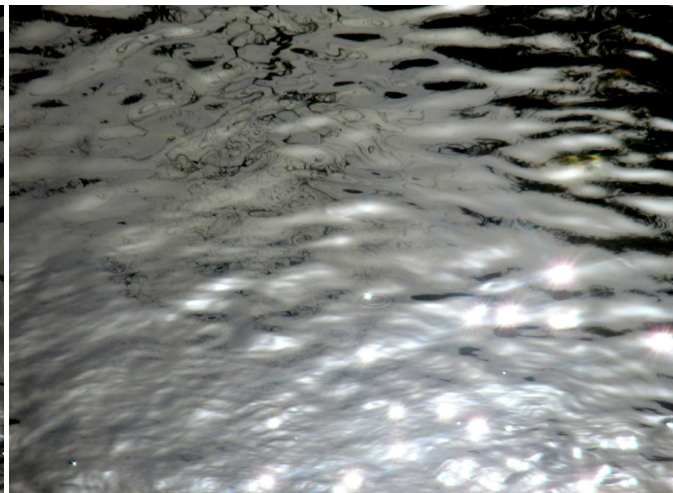
2015.2.28 ~ 2015.3.24

【神秘学ポエジー～風遊戯 第16集】

photo ヴァージョン

神秘学遊戯団

photopos-176
2015.2.28



心の層を深みへ

目を閉じ
心を鎮め

積み重なった
数知れぬ記憶へと潜り

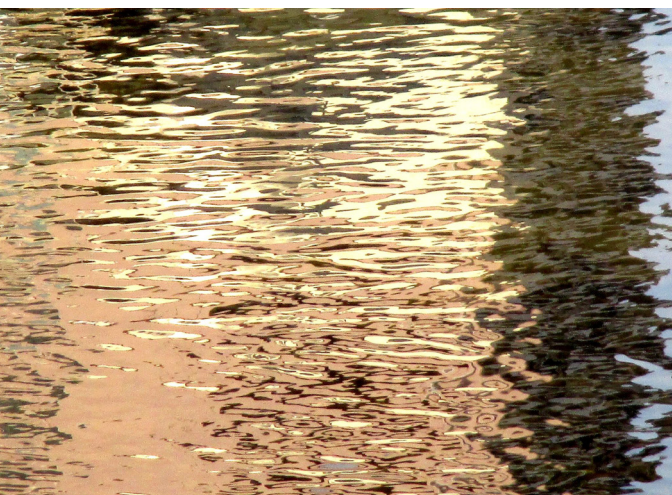
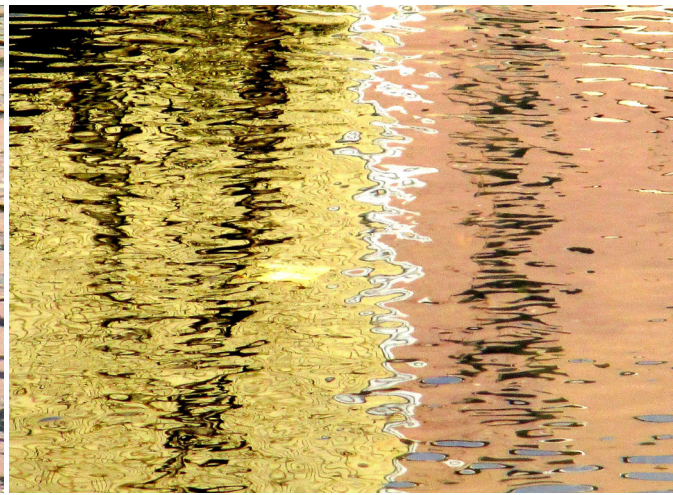
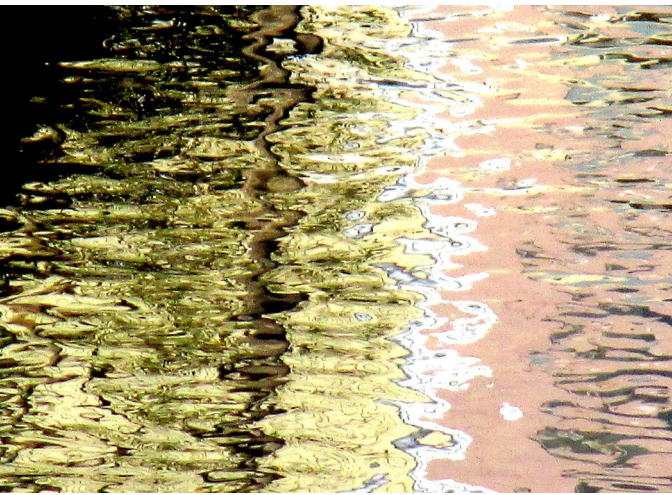
やがて見えてくる
光のほうへ

記憶の彼方にある
懐かしい場所

光の湧きだす源へ

*岡山市西川緑道公園にて

photopos-177
2015.3.1



ふたつの心がせめぎあう

ふたつの道がもとめあう

どちらの色をまとおうか

どちらの道をえらぼうか

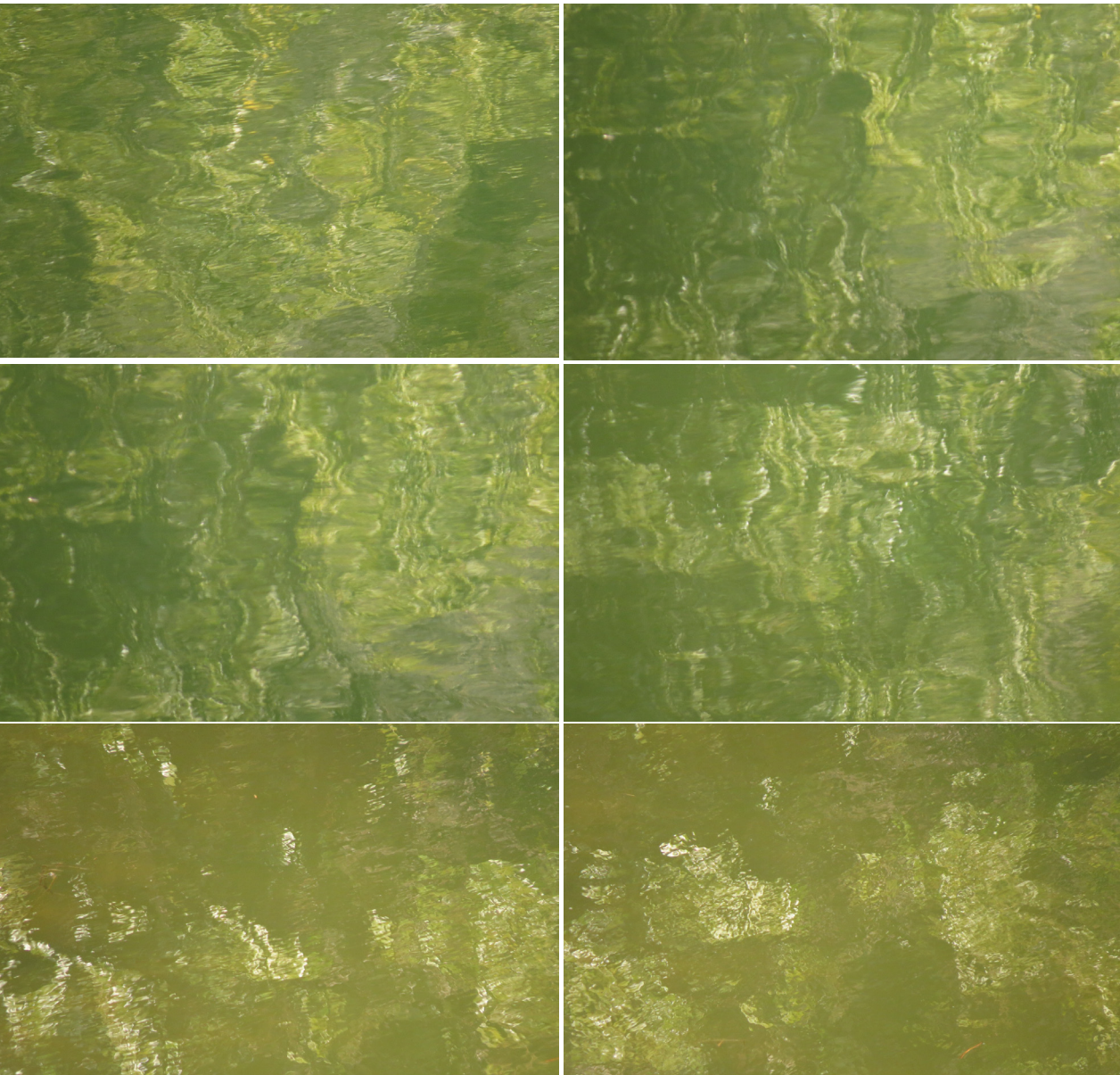
どちらの色がたのしかろ

どちらの道がやさしかろ

過去と未来もせめぎあう

私とあなたももとめあう

photopos-178
2015.3.2



分け入っても分け入っても
緑の森は深くはてなく続き

陽炎の迷路はゆらゆらゆれて
緑の道はどこまでも続き

いったいどこへ導かれているのか
迷いさまよう私を惑わせ

眠りの森の鏡は緑のキャンバスを
深く深く緑に染めてゆくのです

*岡山県和気町自然保護センターにて

*「分け入っても分け入っても青い山」(種田山頭火)

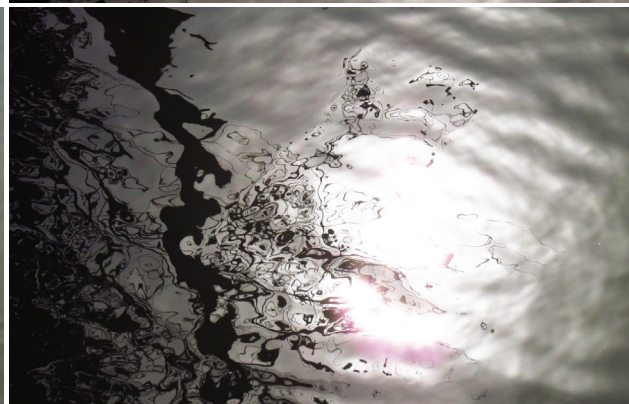
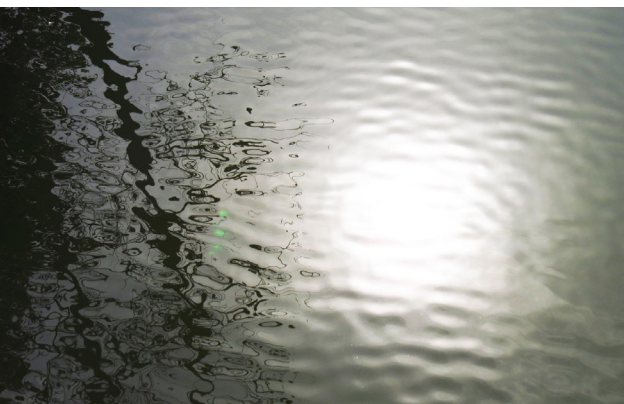
photopos-179
2015.3.3



光はどこから来てどこへ行くのか
光とはいったい何なのか

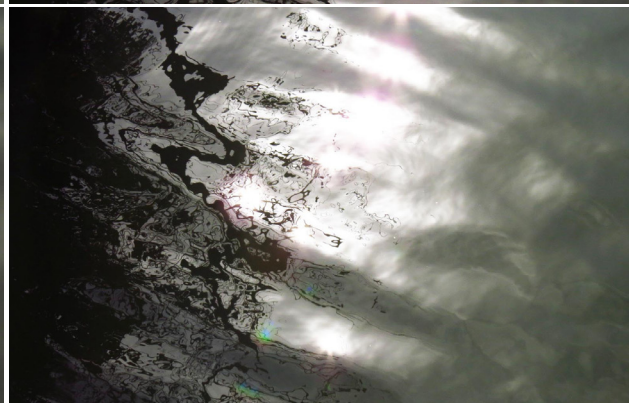
闇はどこから来てどこへ行くのか
闇とはいったい何なのか

世界はどこから来てどこへ行くのか
世界とはいったい何なのか



心はどこから来てどこへ行くのか
心とはいったい何なのか

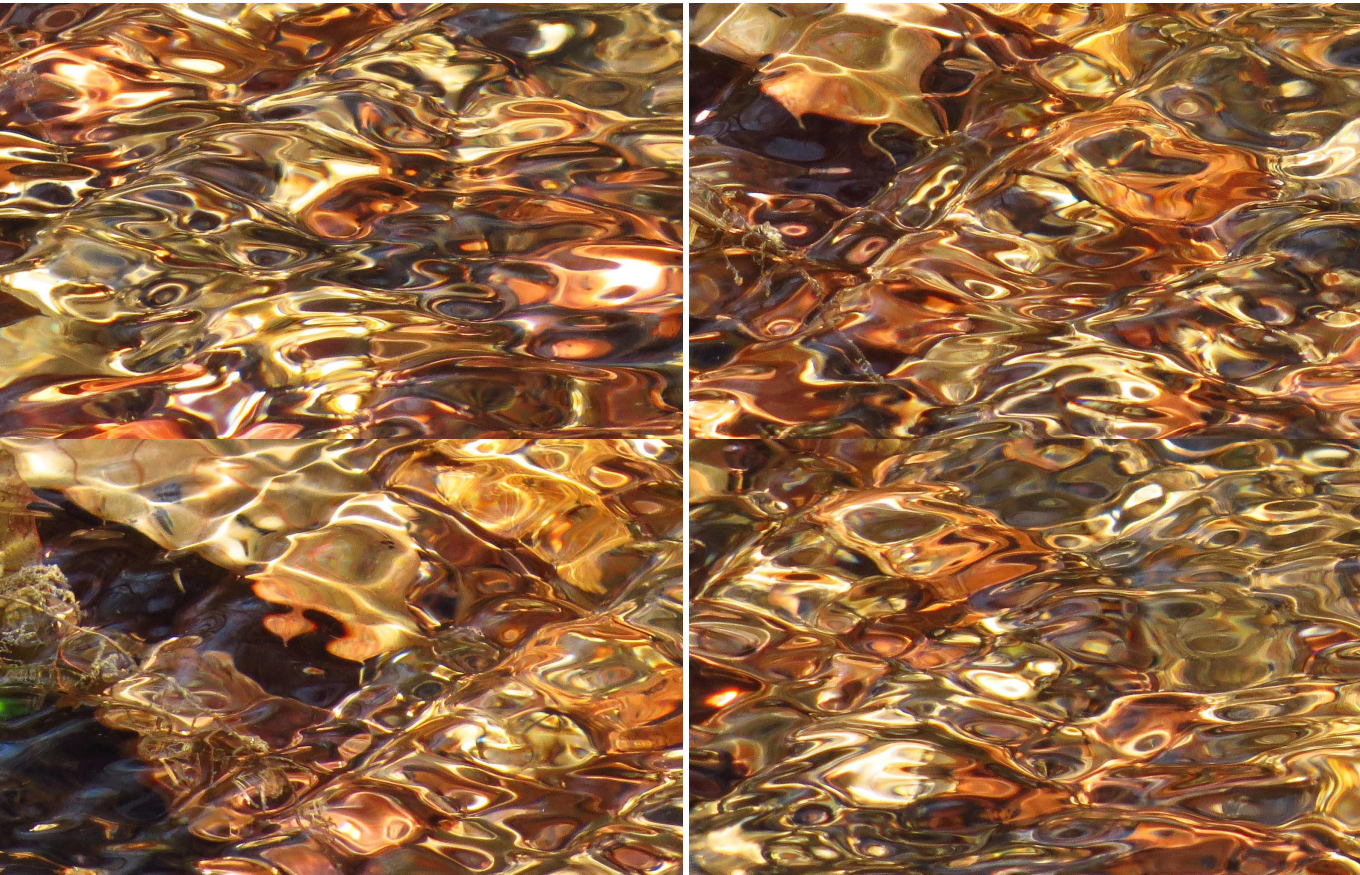
私はどこから来てどこへ行くのか
私とはいったい何なのか



問いは細胞のように分裂を繰り返し
集まりながら新たな問いを生み続ける

*岡山県和気町自然保護センターにて

photopos-180
2015.3.4



どこかに置き去りにして
忘れていたはずの記憶

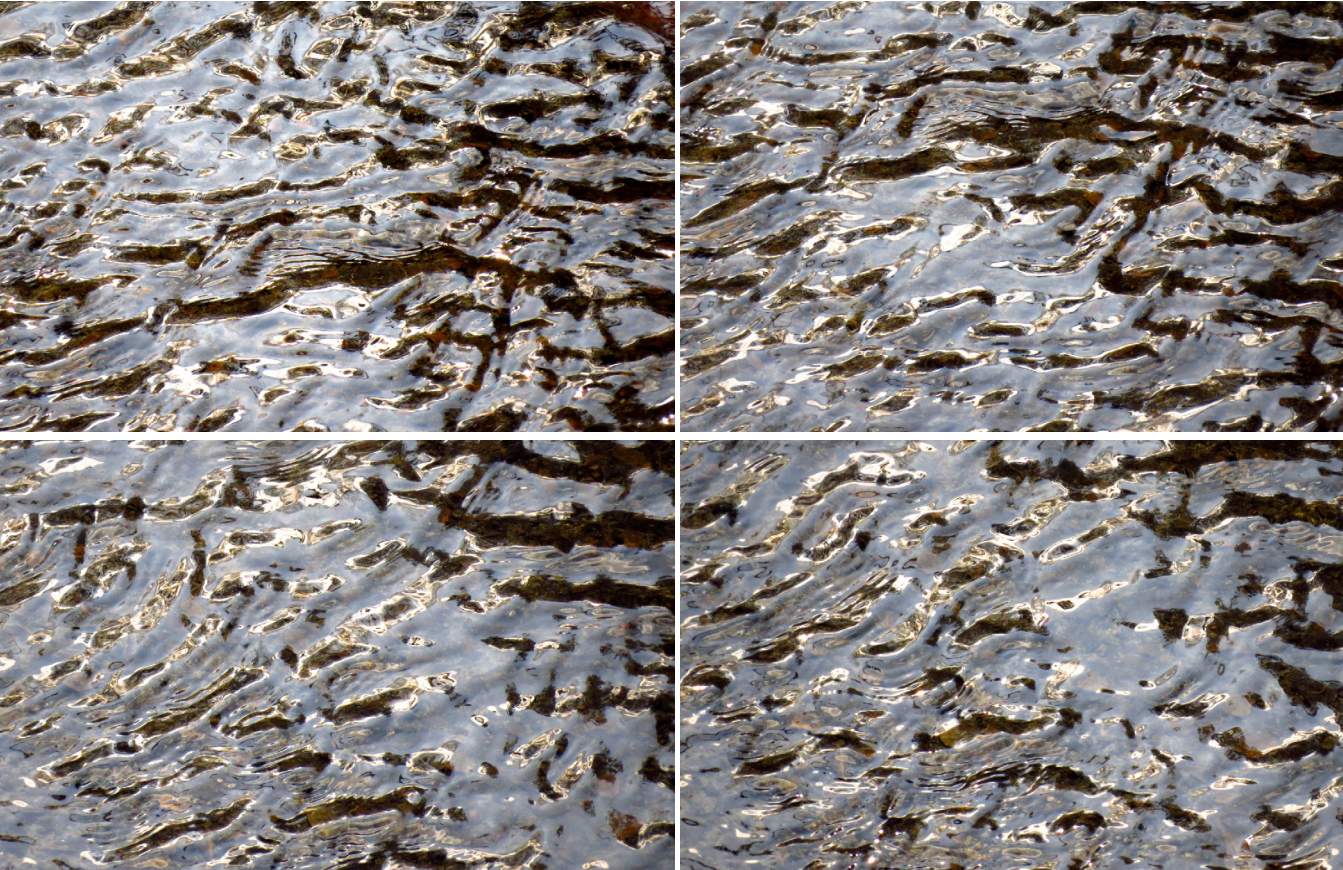
そのひとしづくひとしづくが
どこからともなく集まり
琥珀色の怪物たちを目覚めさせてゆく

夢を微睡む私に
容赦なく襲い来る記憶の怪物たちよ
おまえたちは私を目覚めさせようというのか
それともわたしをただ惑わせようというのか

忘れていたはずの記憶は
悪夢のように私のなかで笑い続ける

* 岡山県和气町自然保護センターにて

photopos-181
2015.3.5



今という迷路のなかで
過去と未来がせめぎあう

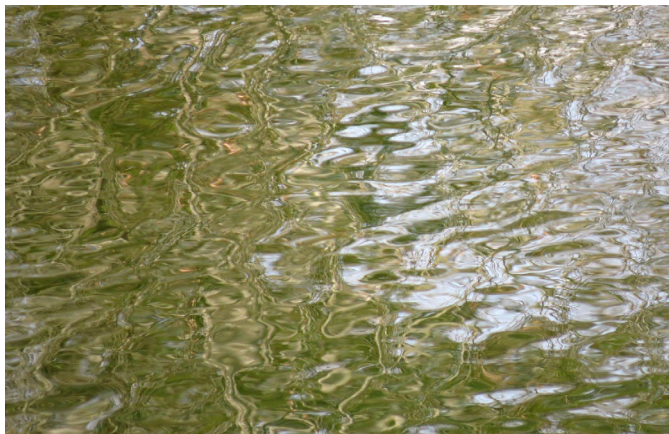
過去は過ぎ去るか
されどときに未だ去らず

未来は未だ来ぬか
されどときにすでに来たりて

迷う心は雲になり捻れ重なり
漂う迷路のように蠢いている

* 岡山県岡山市龍ノ口山にて

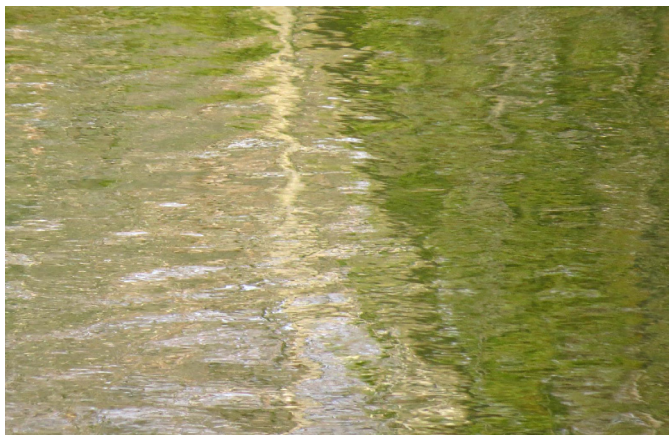
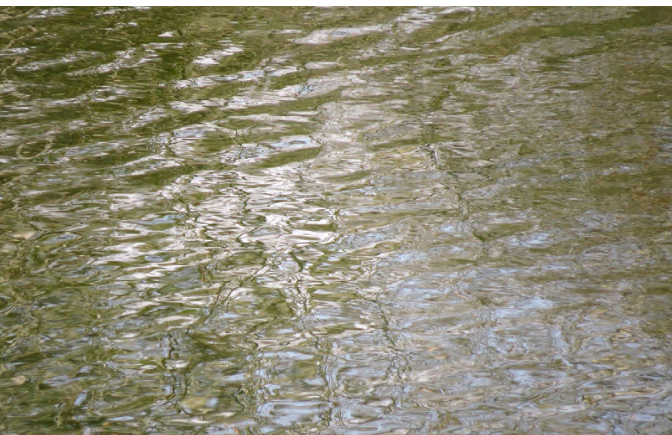
photopos-182
2015.3.6



季節のめぐりのなかで
魂の境界線がゆれはじめるとき

その隙間から見えてくる
天を映す地と
地を映す天のたえまない交歓

永遠は見えたかえ
今はじっと待っているがいい

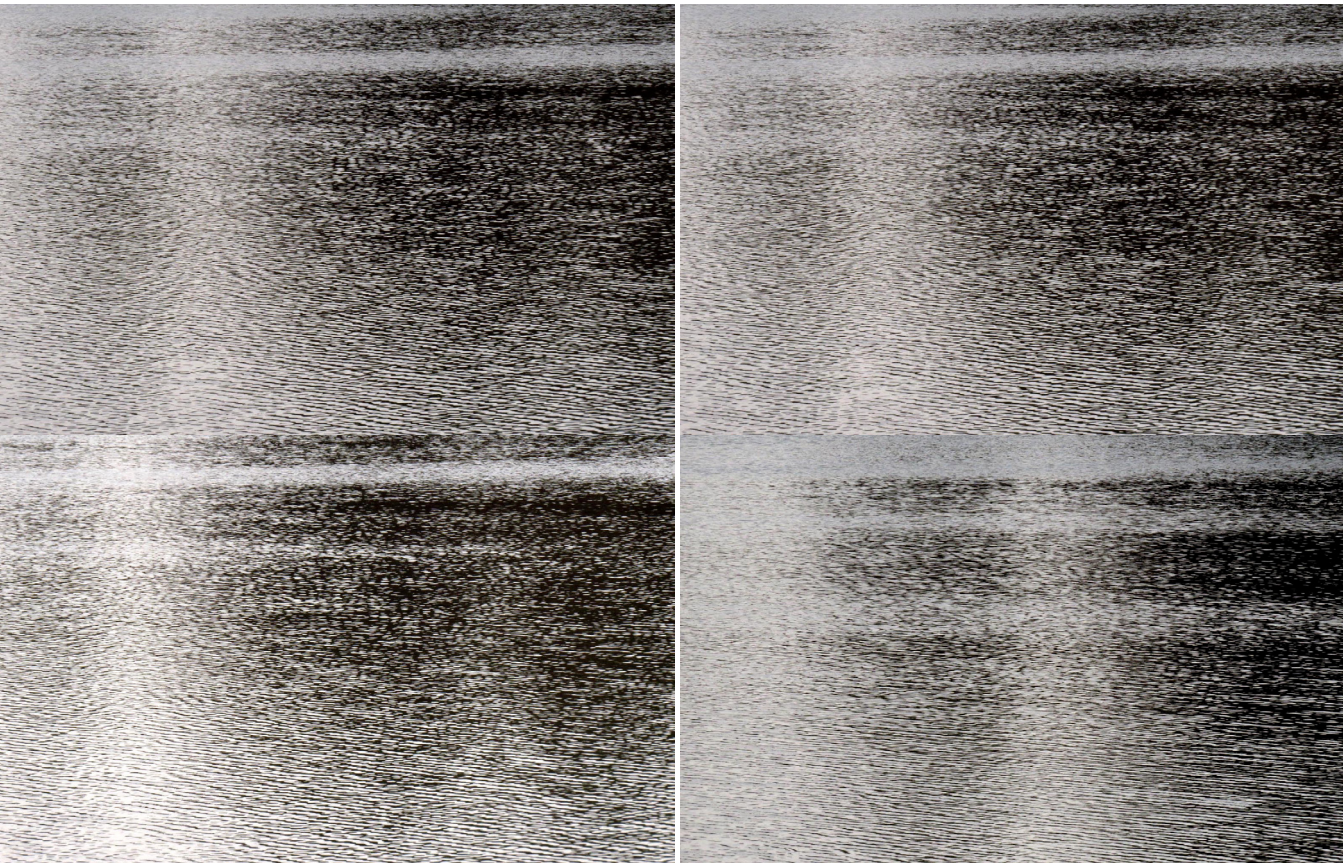


姿なきけものたちが
けけけと笑って飛びすぎる

季節のめぐりのなかを
光の文字は静かにゆれながら
天地の秘儀を魂に刻もうとしている

* 岡山県和気町自然保護センターにて

photopos-183
2015.3.7



どこからともなく
祈りは訪れ

目を閉じれば
光の陰画のなかを
静かに風が渡ってゆく

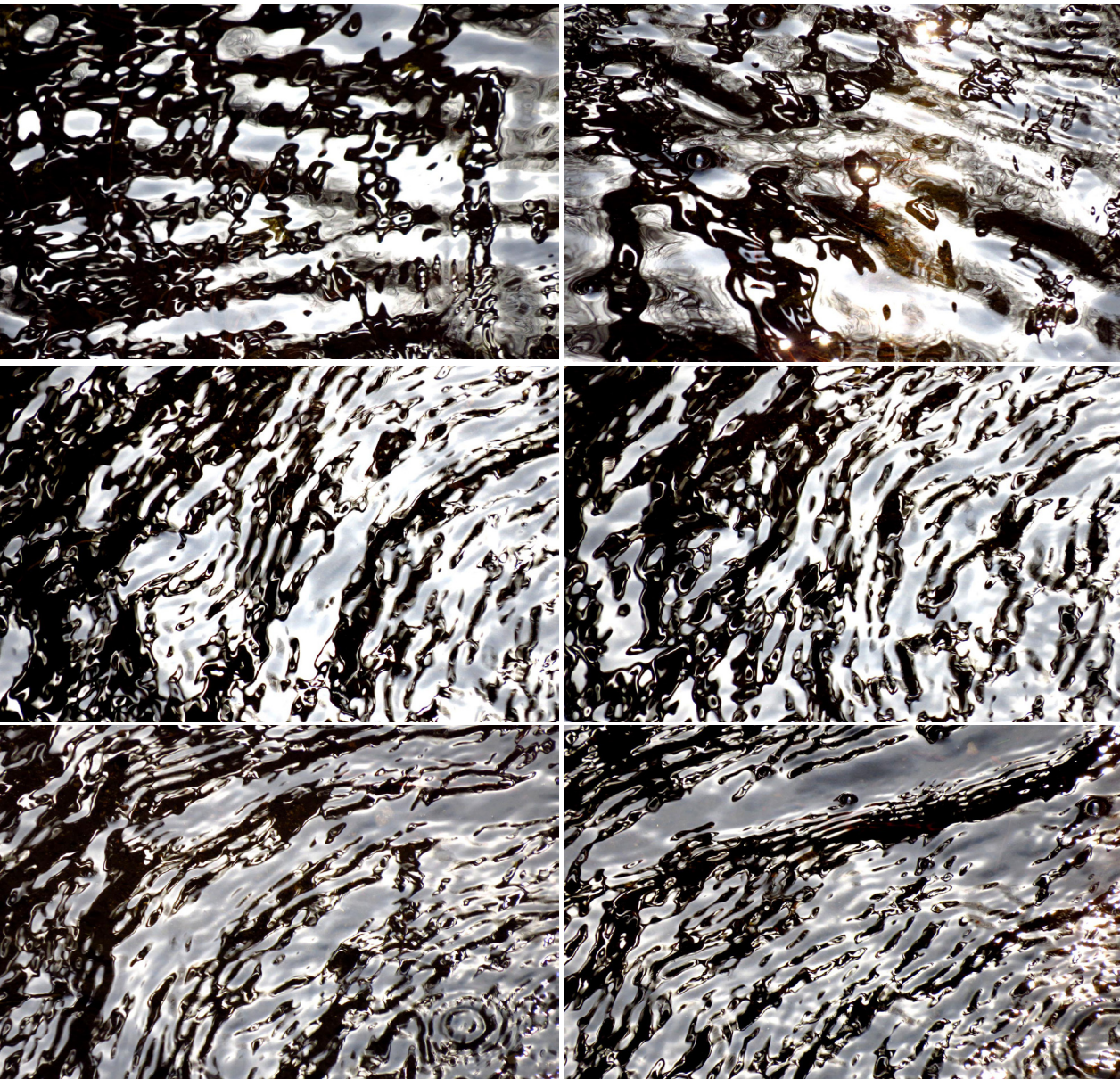
祈りはどこから
そしてどこへ

私はそっと耳をすませて
その行方を追ってみるけれど

気づけばいつのまにか
どこへともなく去ってしまうの
でした

* 岡山県和气町自然保護センターにて

photopos-184
2015.3.8



風が変わると
光の子どもたちは
さざめきながら踊り出す

凍えた魂を溶かす呪文が
ゆれ動く闇の間を
波紋のように渡ってゆき

季節のうつろいのなかで
せめぎ合う光と闇の物語が
ふるえる水の鏡に記されてゆく

* 岡山県和气町自然保護センターにて

photopos-185
2015.3.9



右の頬を打たれし者よ
右の頬を打ち返してはならぬ

怒りは怒りを生む
闇は闇を生む

怒りが怒りに呑み込まれるまえに
怒りを溶かす花を差し出さねばならぬ

闇が闇を深めるまえに
光の種を植えねばならぬ

怒りの源にある悲しみを見よ
闇の源にある絶望を見よ

悲しみは慈しみを
絶望は安らぎを求めている

右の頬を打たれし者よ
左の頬から祈りを捧げねばならぬ

* 岡山県岡山市龍ノ口山にて

photopos-186
2015.3.10



静かな音楽を奏で
夢見ている夢の細胞たち

なにを夢見ているのか
どこへ行こうとしているのか

みずからを描きながら
みずからを歌いながら

ゆるゆるとふるふると
流れ集まりまた流れ

夢のなかで
また夢を見ているのか

夢の細胞たちは
どこまでも続く夢のなかへ

*岡山県和気町自然保護センターにて

photopos-187
2015.3.11



地は重く
空は遠く

心は叫び
体は軋り

光は歪み
闇は唸り

それでも
手は探り

それでも
足は動き

それでも
声は詠い

はてない
旅の途中

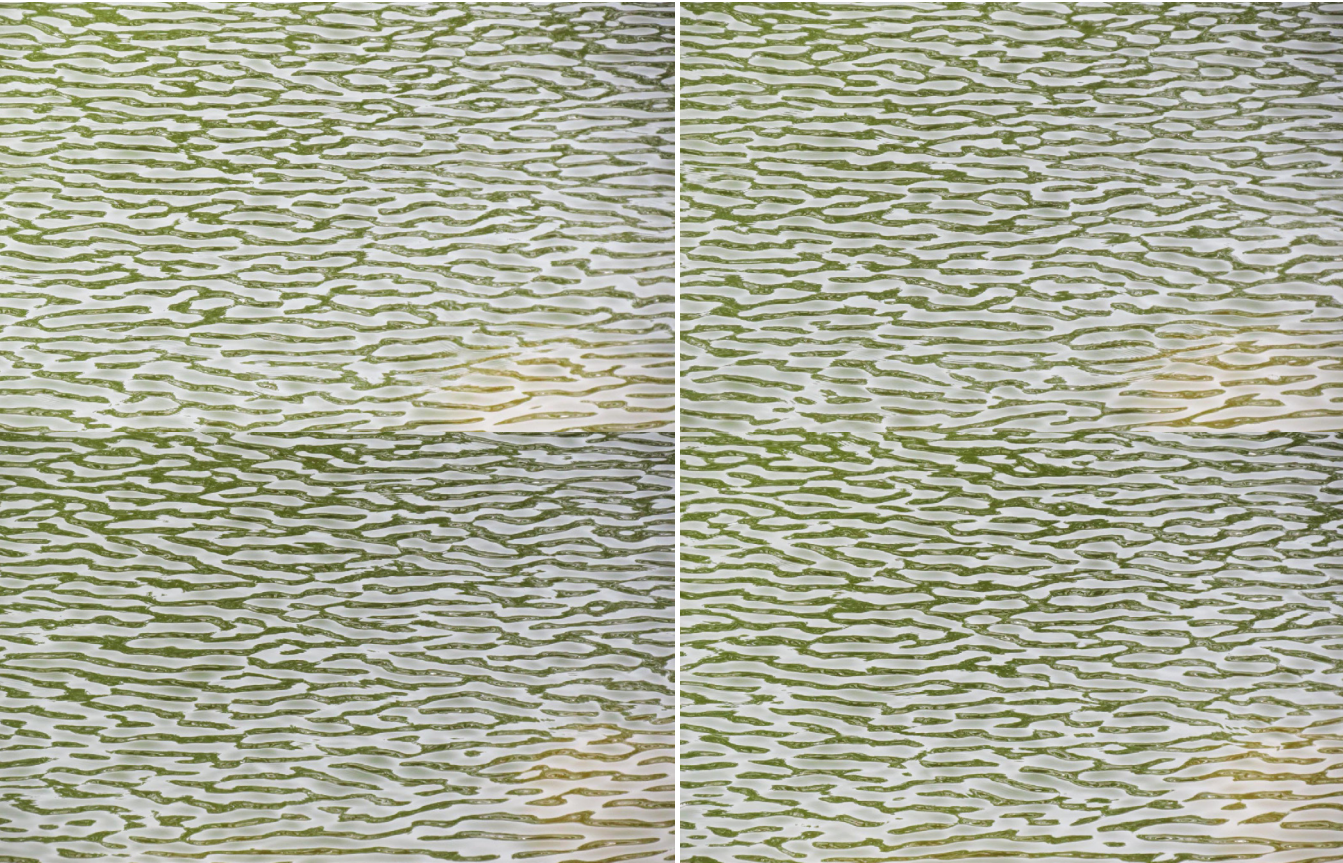
はてない
星を眺め

はてない
愛を求め

はるかな
彼方へと

*岡山市西川緑道公園にて

photopos-188
2015.3.12



世界は迷宮なのか
私そのものが迷宮なのか

私は雲のような迷宮を
さまよひ歩いている

しるべもないままに
はてしなく道は続く

正しき道はどこに
アリアドネの糸はどこに

あるとき気づく
与えられた道が迷いをつくるのではないか

迷宮から抜け出そうとすることが
そこを迷宮に変えるのではないか

みずからが道となることだ
そうすれば道に迷うことはない

永遠と無限のなかで
私という道が歩いているだけ

*岡山県和気町自然保護センターにて

photopos-189
2015.3.13



悲しみを溶かす光をください
冬ざれた氷の魂を砕く熱をください

叫びがあり
祈りがある

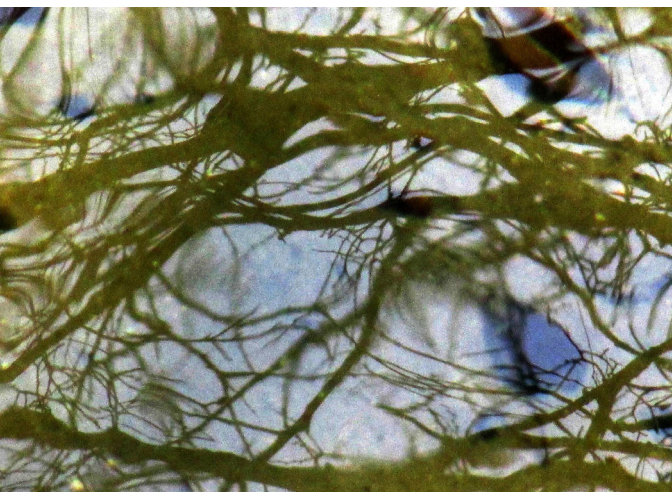
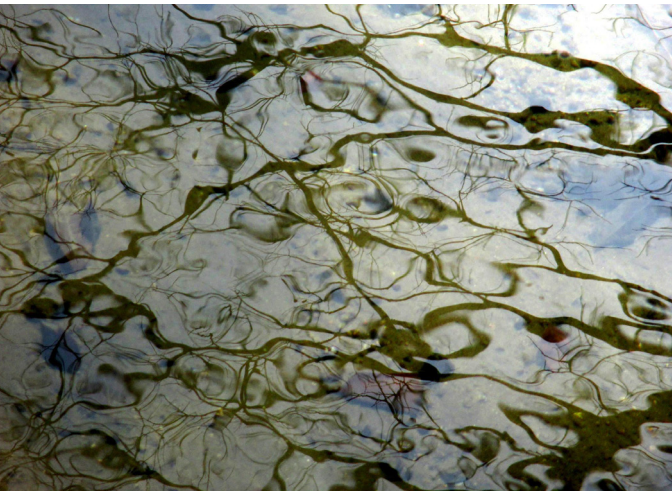
かつてありしもの
やがてきたるもの



そのあいだの深い亀裂から
いまという時が氷解してゆく

*岡山県和気町自然保護センターにて

photopos-190
2015.3.14



夢を食ったのか
ああ夢を食ったのさ

眠りの森の奥深く
ひそひそ蠢く声がある

ときにいっせいに笑いさざめき
ときにいっせいに静まりかえる

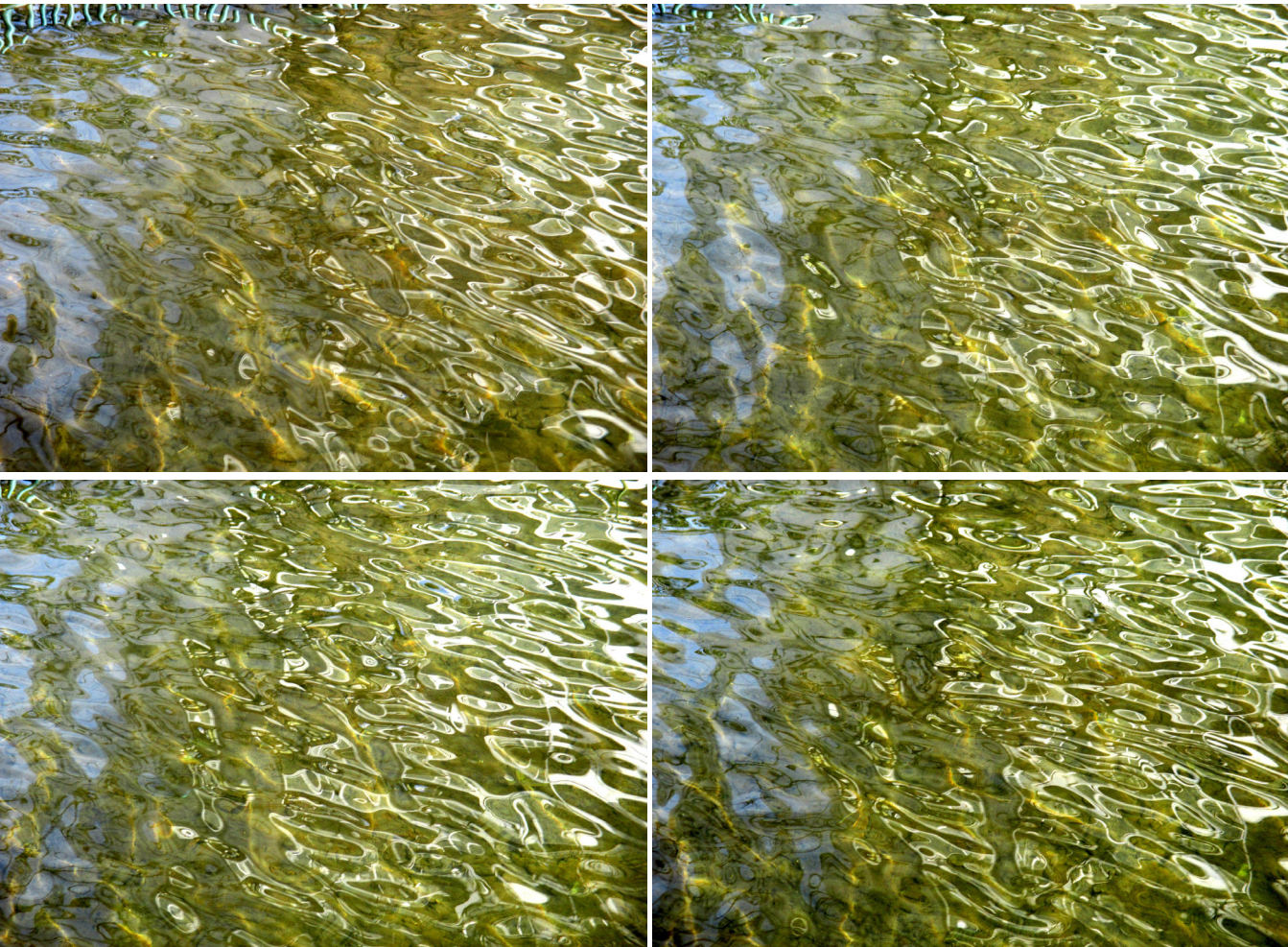
夢見る神経細胞は
ゆるゆら伸びて広がって

妖し妖しの幻灯の
映す記憶の綾の紋

夢に食われたのか
ああ夢に食われたのさ

*岡山市西川緑道公園にて

photopos-191
2015.3.15



季節のうつろう声に
呼び寄せられ

叡智を求め
光に向かい

次々に集いくる
水鏡の文字たち

秘密の言葉を
ひそかに交わしあい

たえず姿を変えながら
天と地を照らし返し

やがて歓喜とともに
水のあわいへ

* 岡山市西川緑道公園にて

photopos-192
2015.3.16



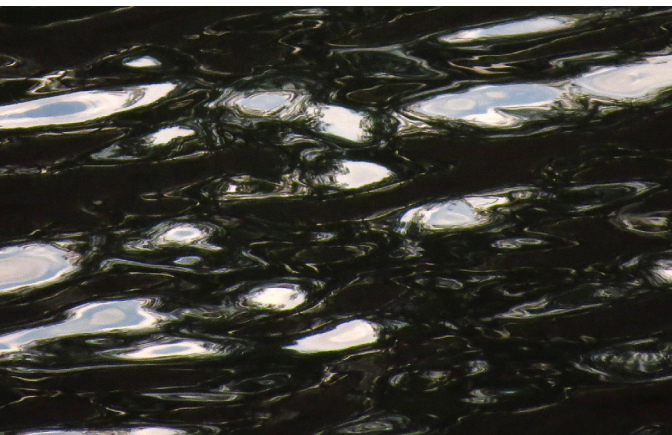
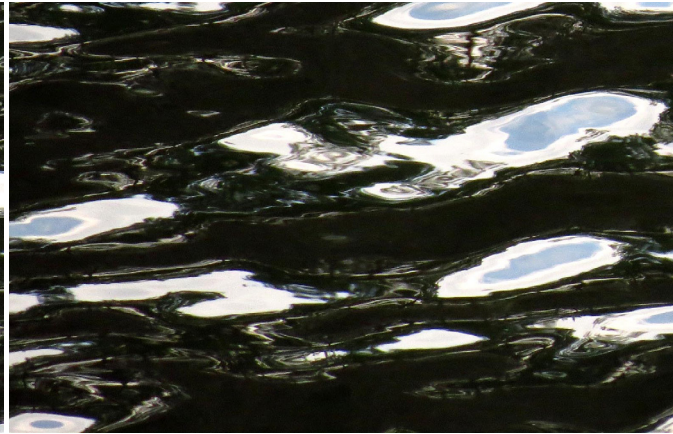
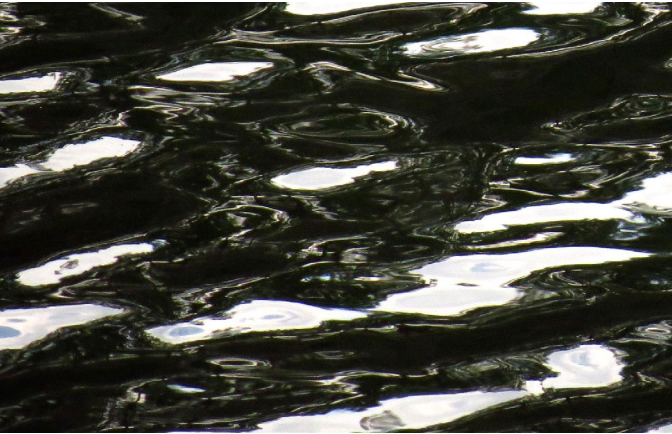
なすすべもなく
流されゆくもの
とともにありて

路なきから始め
我が道の途上を
歩み歩み歩みて

はるけき彼方へ
向かわんと欲す
此路尽くるとも

* 岡山市西川緑道公園にて

photopos-193
2015.3.17



黒い気持ちのなかを
白い気持ちが浮かんでいる

黒い気持ちは
白い気持ちに

白い気持ちは
黒い気持ちに

思いを伝えたいのだが
なかなかうまくはいかない

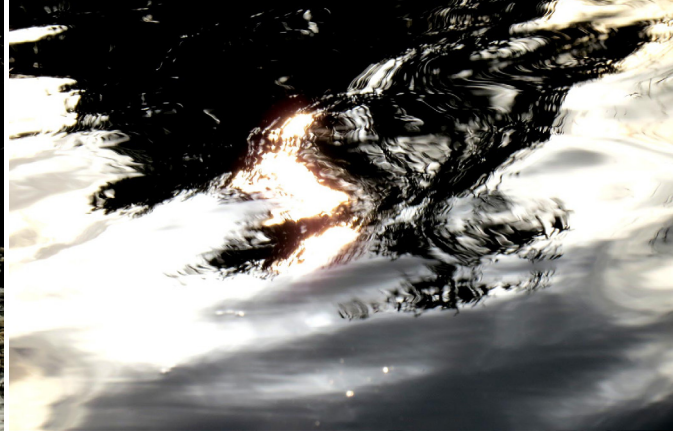
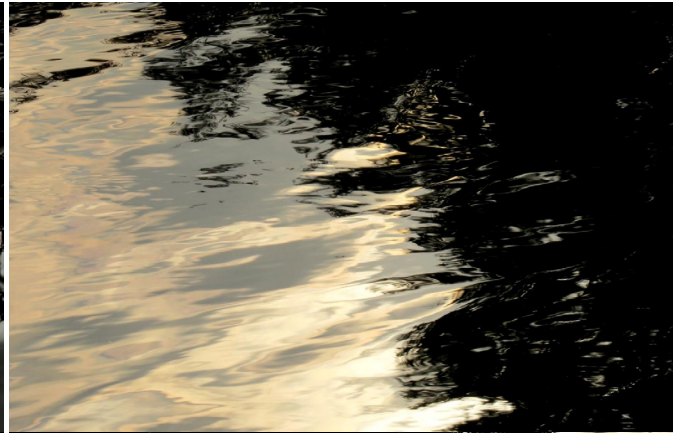
どんな気持ちか
たがいにわからないまま

黒い気持ちと
白い気持ちは

浮かびただよいながら
どこか気まずそうに流れてゆく

* 岡山県和气町自然保護センターにて

photopos-194
2015.3.18



* 岡山県和气町自然保護センターにて

夕暮れまでにはまだ時がある
光あるうちにその道を歩め

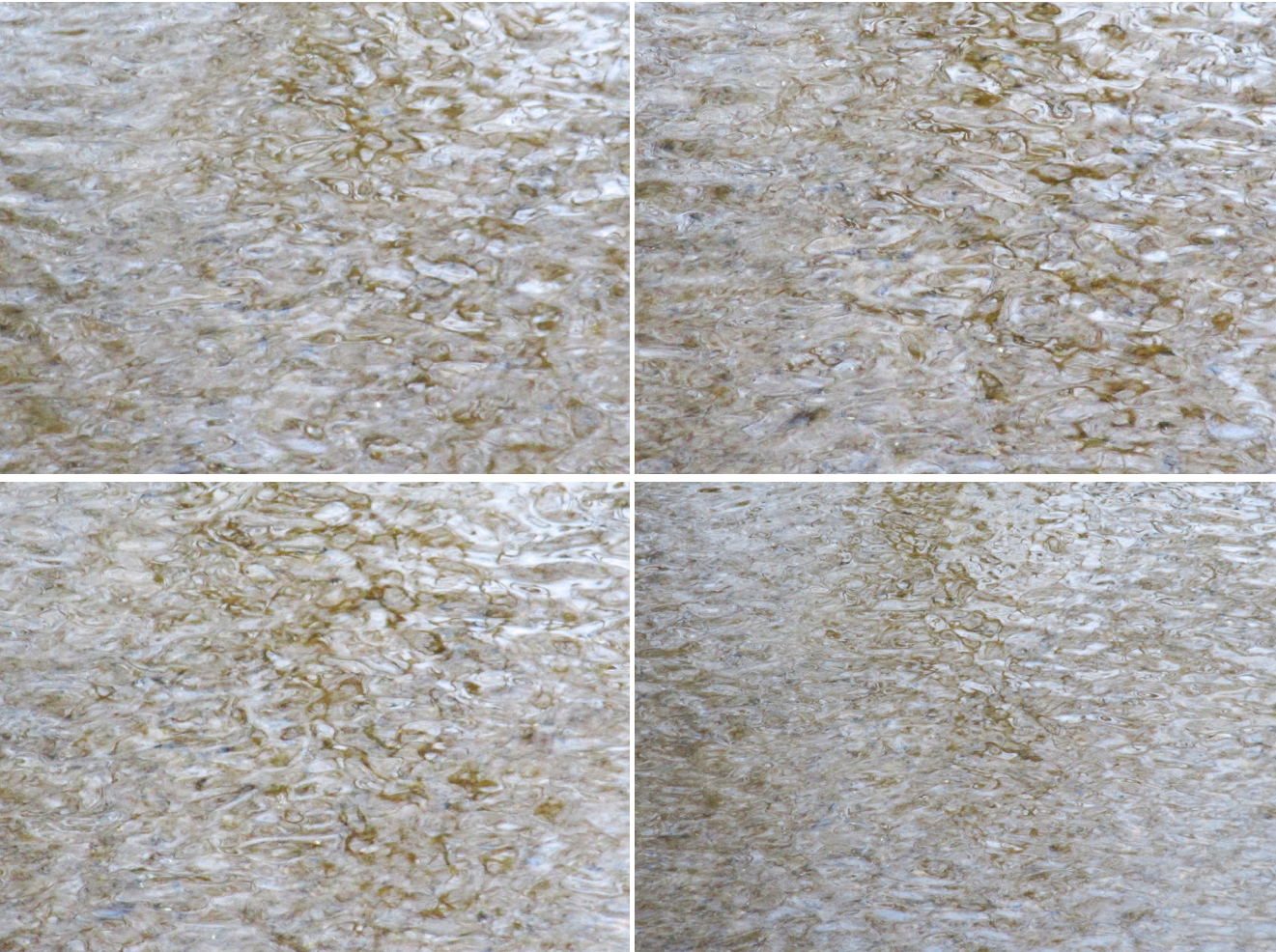
世界の鏡に映るものたちの秘密を
確かにその眼でとらえるのだ

光なきときは
内なる光を灯して歩め

叡智を聴くことのできる耳を育て
闇のなかでは静かに耳をすませることだ

天空が大地がささやく音楽を
みずからを豎琴にして奏でるのだ

photopos-195
2015.3.19



まだかたちにならないものが
かたちになろうとするように

まだひかりにならないものが
ひかりになろうとするように

まだこころにならないものが
こころになろうとするように

すべてはまどろみながれゆき
しだいにめざめゆくのでした

photopos-196
2015.3.20



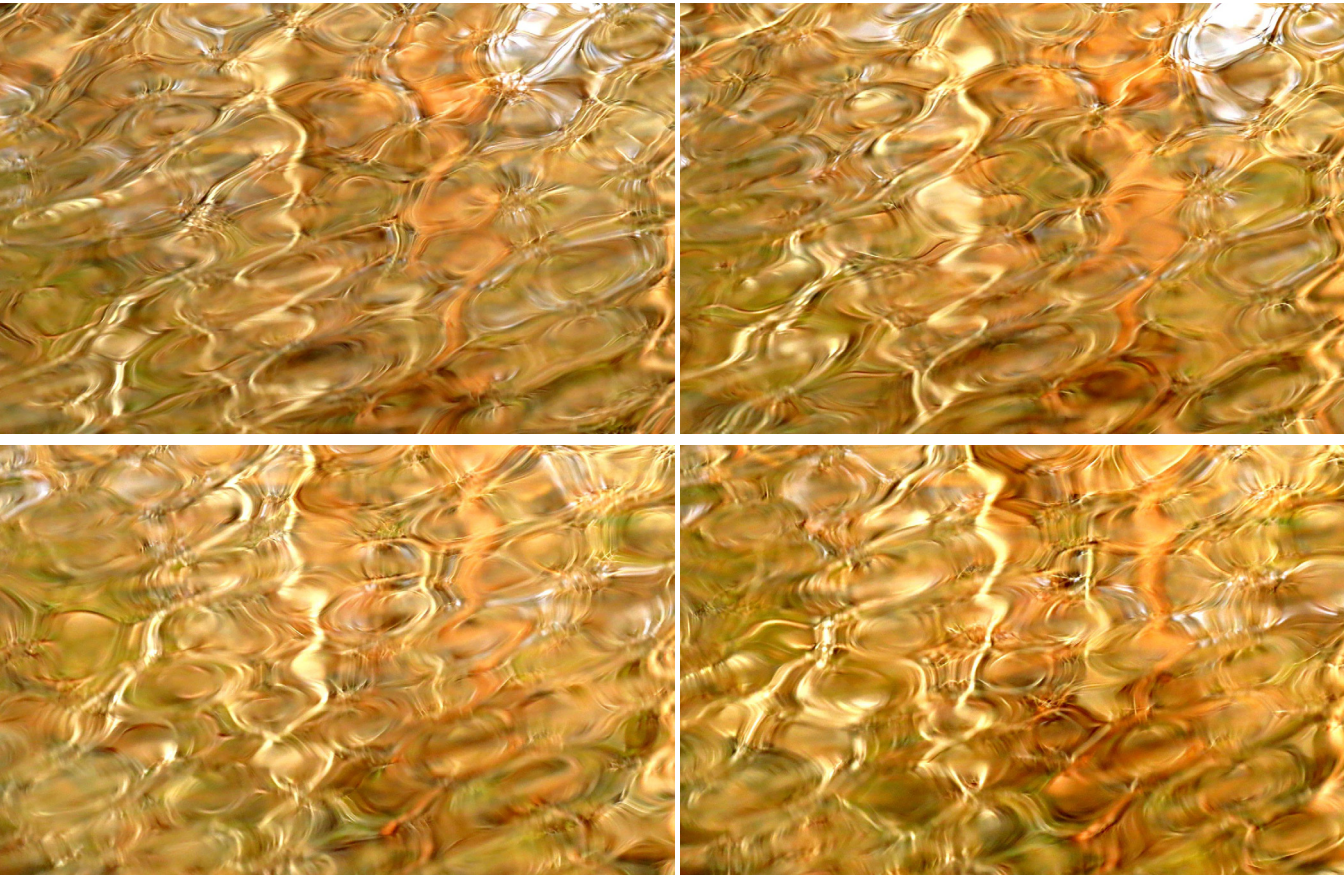
きらきらひかる
なみのうろこの
つかのまのゆめ
かぎろいのうた

きらきらひかる
かぜのさやぎの
はるけきわたり
うつろうすがた

きらきらひかる
みずのことばの
さざめくもりに
とりなきかわす

* 岡山県和気町・自然保護センターにて

photopos-197
2015.3.21



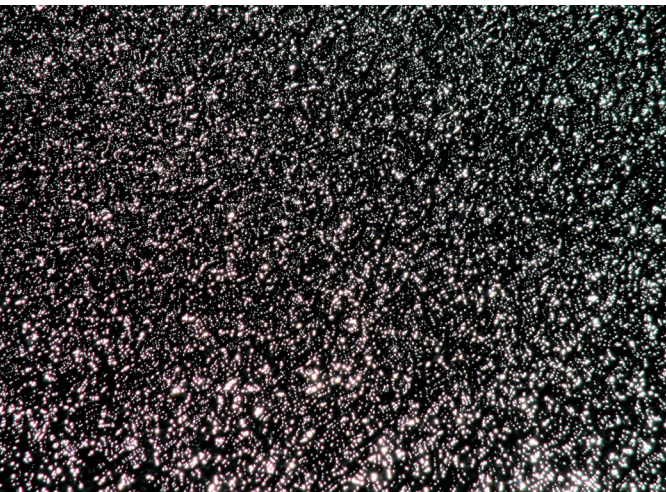
まどろみのうちに
春はその微風を送り
感官は甘い蜜の夢を見る

もうしばらく
夢を見させておくれ
もうしばらく
蜜を楽しませておくれ

やがて訪れる
目覚めのときまで
やがて超えてゆく
境を見いだすそのときまで

*岡山県新見市哲西町鯉が窪湿原にて

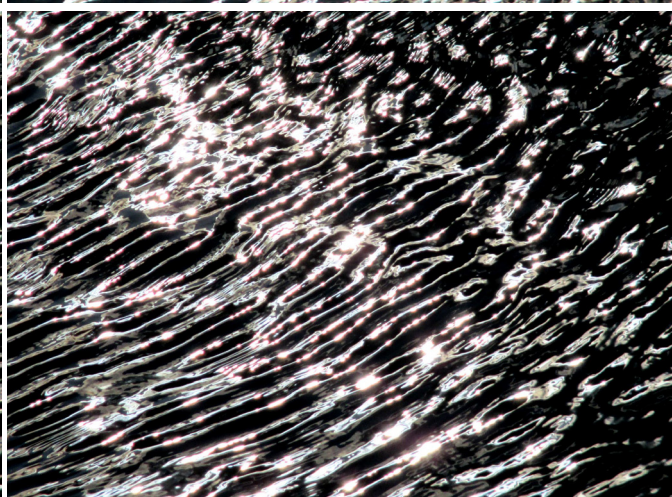
photopos-198
2015.3.22



きらめく星空のごとく
わが内なる星は輝きて

流れゆく水のごとく
わが内なる水は波紋をなし

ゆらめく炎のごとく
わが内なる熱は放たれ



めざめゆく地のごとく
わが内なる地は轟きて

ふきぬける風のごとく
わが内なる風は空に舞う

* 高松市・高松城跡にて

photopos-199
2015.3.23



季節とともに流れてごらん
恐れることなどないんだから

光とともに遊んでみるんだ
闇が光にかわる美しさのまえで

生きていることを楽しんでごらん
死を恐れることなどないんだから

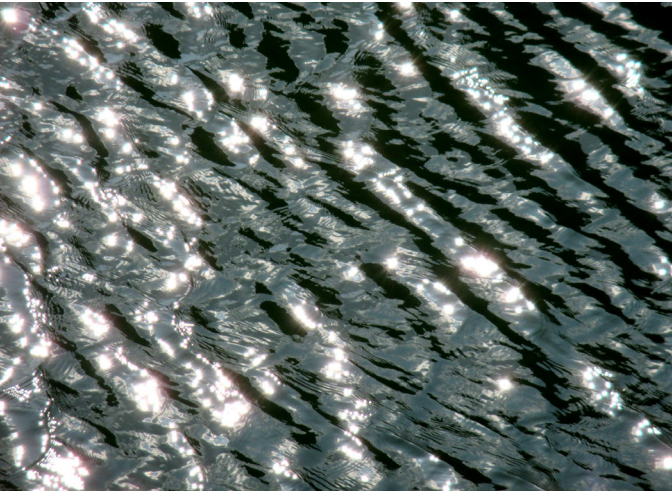


知ることを恐れないようにね
自分を静かに見つめればわかるはずさ

愛することを楽しんでごらん
憎しみは愛の前では溶けてゆくから

*高松市・高松城跡にて

photopos-200
2015.3.24



めざめのときの
ゆめのきれぎれ
ひかりはうまれ
みどりにとけて
かぜにゆらめき
みずにさざめき
うつりゆくかげ

*高松市・高松城跡にて